

# スーパーマーケット販売統計調査資料

2021年6月実績 速報版(パネル270)

5月実績 確報版(パネル270)

(2021年7月21日公表)

## 調査資料概要

### 【パネル270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

### 【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

### 【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

### 【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

### 【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
		非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)		

### 【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2021年7月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2021年6月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)	2019年同月比 (全店)	2019年同月比 (既存店)
総売上高	96,282,086	100.0%	100.0%	98.9%	106.2%	103.7%
食品合計	87,345,891	90.7%	101.2%	100.1%	107.4%	105.0%
生鮮3部門合計	33,035,342	34.3%	99.6%	98.4%	109.0%	106.0%
青果	13,565,766	14.1%	100.3%	99.1%	111.0%	108.3%
水産	8,345,531	8.7%	100.2%	98.9%	108.9%	105.7%
畜産	11,124,045	11.6%	98.5%	97.2%	107.1%	104.1%
惣菜	9,945,864	10.3%	107.6%	105.9%	109.2%	105.8%
日配	19,122,456	19.9%	100.9%	99.8%	106.9%	104.4%
一般食品	25,242,229	26.2%	101.2%	100.4%	105.8%	103.7%
非食品	6,648,516	6.9%	87.7%	86.9%	98.0%	97.3%
その他	2,287,727	2.4%	95.9%	95.5%	91.0%	90.4%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,855,726	43	99.8%	99.5%
関東地方	35,482,450	73	101.0%	100.0%
中部地方	11,373,180	53	98.9%	97.4%
近畿地方	22,203,729	44	100.0%	98.9%
中国・四国地方	9,616,344	34	101.3%	98.9%
九州・沖縄地方	4,750,657	23	94.0%	93.4%

## 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	608,553	46	93.4%	93.4%
4~10店舗	4,480,103	82	95.3%	95.0%
11~25店舗	9,485,535	54	99.1%	98.6%
26~50店舗	16,360,055	44	98.4%	97.8%
51店舗以上	65,347,839	44	100.8%	99.5%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	94,492,530	
総店舗数 (店舗)	8,198	店舗平均月商 (万円)	11,745	
総売場面積 (㎡)	13,710,534	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.0	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

※前々年比集計 (既存店) : 前々年比と当月で保有店舗数に変化のない企業を対象

2021年7月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2021年5月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	100,006,491	100.0%	97.6%	96.9%
食品合計	91,512,378	91.5%	98.0%	97.2%
生鮮3部門合計	34,996,597	35.0%	95.7%	94.8%
青果	14,021,343	14.0%	93.8%	93.0%
水産	8,866,164	8.9%	99.6%	98.7%
畜産	12,109,090	12.1%	95.1%	94.2%
惣菜	10,364,916	10.4%	109.1%	108.0%
日配	20,014,671	20.0%	96.4%	95.5%
一般食品	26,136,194	26.1%	98.4%	97.9%
非食品	6,197,824	6.2%	92.9%	92.2%
その他	2,296,331	2.3%	98.9%	98.7%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,571,371	43	98.2%	97.9%
関東地方	36,934,046	73	97.4%	96.7%
中部地方	11,929,439	53	95.4%	94.8%
近畿地方	22,580,559	44	98.1%	97.3%
中国・四国地方	10,034,325	34	99.1%	97.2%
九州・沖縄地方	4,956,751	23	98.7%	98.4%

## 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	654,864	46	90.5%	91.0%
4~10店舗	4,768,799	82	92.2%	92.3%
11~25店舗	9,977,026	54	96.0%	95.6%
26~50店舗	17,179,057	44	96.6%	96.3%
51店舗以上	67,426,744	44	98.6%	97.6%

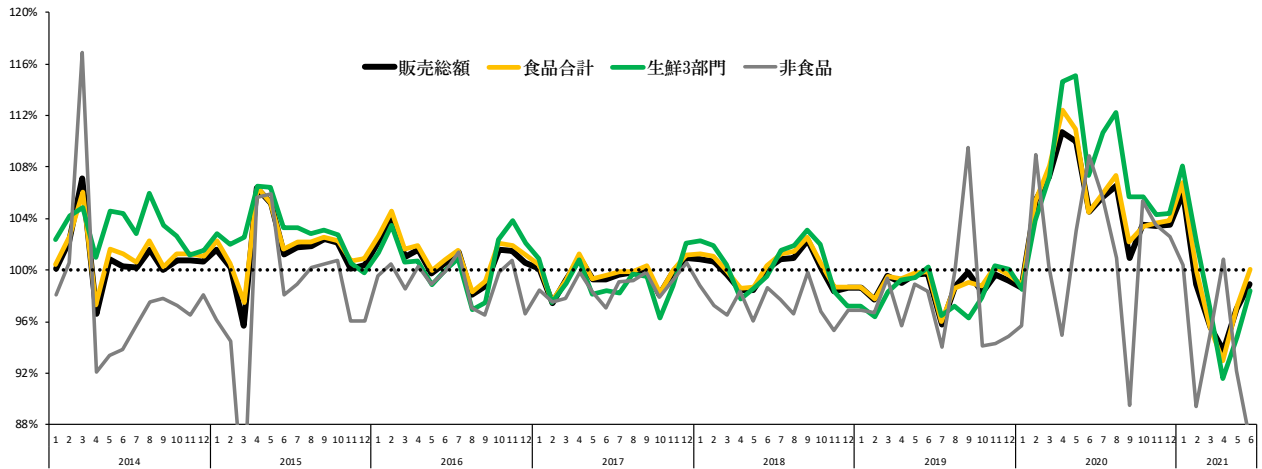
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	98,190,290
総店舗数 (店舗)	8,200	店舗平均月商 (万円)	12,196
総売場面積 (㎡)	13,703,594	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.3

※売上高は税抜金額

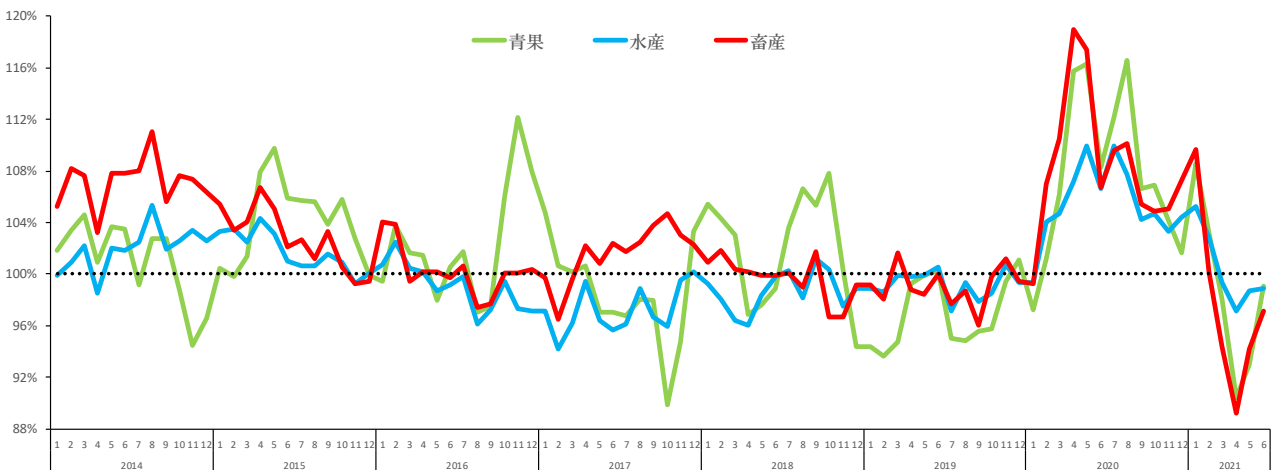
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2014年1月～

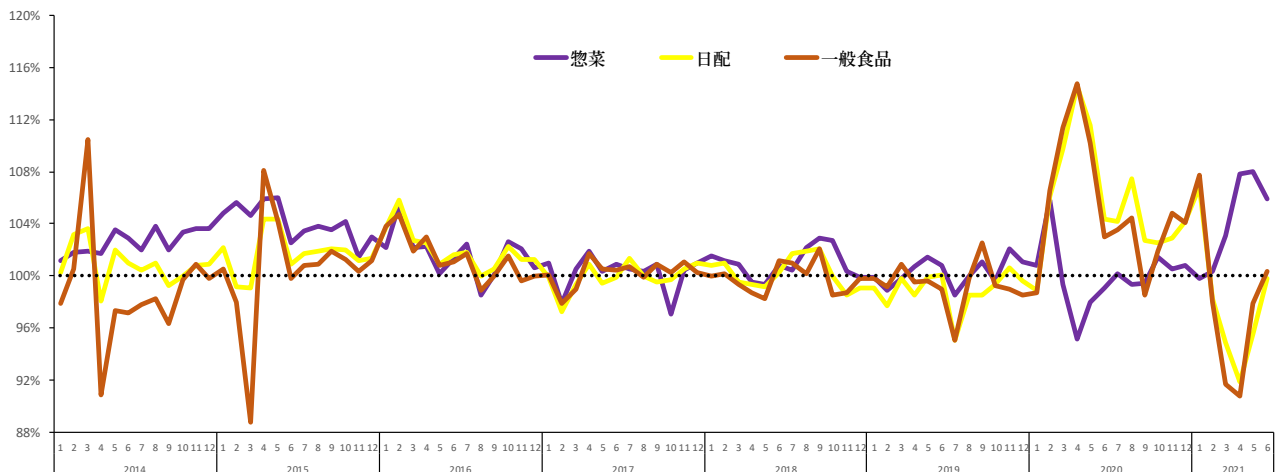
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2021年6月実績は速報版

## 2021年6月エリア別気候状況

**気温の特徴：**北日本でかなり高く、東・西日本と沖縄・奄美で高かった。

上旬：北・西日本ではかなり高く、東日本と沖縄・奄美で高かった。

中旬：全国的に高かった。

下旬：沖縄・奄美でかなり低かった。一方、北日本で高かった。

**2020年6月との比較：**上旬は東日本でやや低く、下旬は北日本で高く、西日本太平洋側で低かった。

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2021年6月			2020年6月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	1.5	1.7	1.1	2.3	1.6	-0.1	-0.8	0.1	1.2
太平洋側	2.3	1.5	0.8	2.9	2.7	-0.5	-0.6	-1.2	1.3
東日本 日本海側	1.0	1.0	0.2	2.5	1.0	1.0	-1.5	0.0	-0.8
太平洋側	1.4	0.4	-0.2	2.7	1.3	0.4	-1.3	-0.9	-0.6
西日本 日本海側	1.2	0.7	0.3	2.1	1.0	0.9	-0.9	-0.3	-0.6
太平洋側	0.7	0.3	-0.3	1.6	1.0	0.7	-0.9	-0.7	-1.0
沖縄・奄美	1.0	1.3	-1.5	1.0	2.0	0.3	0.0	-0.7	-1.8

平年差

+2°C以上  
+1°C以上

-2°C以上  
-1°C以上

前年差

+2°C以上  
+1°C以上

-2°C以上  
-1°C以上

**日照時間の特徴：**北日本でかなり多く、東日本と西日本日本海側で多かった。沖縄・奄美でかなり少なかった。

上旬：北日本ではかなり多く、東・西日本で多かった。

中旬：北日本日本海側では多かった。一方、東日本日本海側と西日本では少なかった。

下旬：西日本日本海側でかなり多く、北日本、東日本日本海側、西日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美でかなり少なかった。

**2020年6月との比較：**下旬は北日本でかなり多い日照時間となった。

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2021年6月			2020年6月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	142	123	143	125	87	60	17	36	83
太平洋側	156	112	125	147	110	40	9	2	85
東日本 日本海側	126	83	151	144	83	138	-18	0	13
太平洋側	121	100	105	127	93	91	-6	7	14
西日本 日本海側	118	64	218	131	64	190	-13	0	28
太平洋側	111	63	141	113	65	153	-2	-2	-12
沖縄・奄美	92	114	33	109	188	73	-17	-74	-40

平年差

平年比150%以上  
平年比125%~149%

平年比50%以下  
平年比51%~75%

前年差

+50%以上  
+25~49%

-50%以下  
-25~-49%

**降水量の特徴：**沖縄・奄美でかなり多かった。一方、北・西日本と東日本太平洋側で少なかった。

上旬：北日本、東・西日本日本海側、沖縄・奄美では多く、東・西日本太平洋側で平年並だった。

中旬：北日本日本海側と沖縄・奄美では少なく、北日本太平洋側と東・西日本で平年並だった。

下旬：沖縄・奄美でかなり多かった。一方、北日本太平洋側、東日本日本海側、西日本でかなり少なかった。

**2020年6月との比較：**本州では上旬はかなり多く、中旬以降はかなり少ない降水量となった。

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2021年6月			2020年6月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	109	51	37	50	109	147	59	-58	-110
太平洋側	129	66	35	46	100	132	83	-34	-97
東日本 日本海側	195	115	25	18	267	67	177	-152	-42
太平洋側	83	106	69	23	184	151	60	-78	-82
西日本 日本海側	130	112	5	5	282	112	125	-170	-107
太平洋側	100	99	33	45	179	82	55	-80	-49
沖縄・奄美	169	58	650	243	12	202	-74	46	448

平年差

平年比150%以上  
平年比125%~149%

平年比50%以下  
平年比51%~75%

前年差

+50%以上  
+25~49%

-50%以下  
-25~-49%

気象庁報道資料「6月の気候」を参考に事務局作成  
平年値は過去30年(1991年~2020年)の平均

# スーパーマーケット景気動向調査

2021年7月調査結果（6月実績）  
（2021年7月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

## 【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」  
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」  
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

---

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

## 【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

---

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会

## 7月調査（6月実績）結果概況

### 景気判断DIの現状は小幅に改善

6月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は、前月から+2.4の41.3、見通し判断は前月から+0.1の37.5となり、現状判断は小幅に改善したが、見通し判断に変化はなかった。

経営動向調査は、売上高DI、収益DI共に前月よりマイナス幅を縮小した。引き続き在宅傾向が高く、堅調な食品需要が続いているが、前年は分散登校などが続き需要が高かった保存性の高い食品や、マスクなどの衛生用品、紙製品の反動が響いている。一方で、20年6月は緊急事態宣言が解除されていたこともあり、前年同月の比較としては、3～5月実績に比べ反動は縮小した。

カテゴリー動向調査では、前年特需となった、保存性の高い畜産、一般食品、非食品で反動を受け、前年プラス幅が大きかったカテゴリーほどマイナス幅が大きい傾向が続いている。一方で、前年不振であった惣菜DIは回復し、大幅プラスとなった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、現状判断に小幅な回復傾向もみられるものの、全体的に大きな基調の変化はみられず、前月水準での推移となった。（長期傾向についてはp11参照）

販売実績は昨年の反動がやや縮小し、前年同月比でも回復傾向がみられた。引き続き、感染拡大への警戒感が高い状況や飲食店への時短や酒類提供自粛などの要請が続いている地域も多く、家飲み需要、家庭内消費需要は堅調に推移している。一方で惣菜部門の回復にみられるように、調理疲れ、調理離れを窺わせる動向もみられる。今後の不透明な消費者動向の変化を機敏にとらえ、部門別の動向だけでなく、食品の用途に着目した販売動向の把握と対応がさらに重要性を増すだろう。

#### 景況感調査

##### 現状判断

<b>景気判断DI</b> 当月：41.3 (+2.4) 前月：38.9	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月：42.0 (+0.2) 前月：41.8	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月：41.2 (-0.8) 前月：42.0	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月：41.9 (+1.4) 前月：40.5
--	---	---	---

##### 見通し判断

<b>景気判断DI</b> 当月：37.5 (+0.1) 前月：37.4	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月：40.2 (-0.7) 前月：40.9	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月：40.4 (-0.6) 前月：41.0	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月：41.0 (+1.8) 前月：39.2
--	---	---	---

#### 経営動向調査 経営状況

<b>売上高DI</b> 当月：-13.2 (+7.2) 前月：-20.4	<b>客単価DI</b> 当月：-9.5 (+4.3) 前月：-13.8	<b>来客数DI</b> 当月：-7.6 (+3.8) 前月：-11.4	
<b>収益DI</b> 当月：-14.6 (+7.0) 前月：-21.6	<b>販売価格DI</b> 当月：-2.9 (+0.6) 前月：-3.5	<b>生鮮品仕入原価DI</b> 当月：4.5 (+2.8) 前月：1.7	<b>食品仕入原価DI</b> 当月：5.1 (+3.1) 前月：2.0

#### カテゴリー動向

<b>青果DI</b> 当月：-12.6 (+10.6) 前月：-23.2	<b>水産DI</b> 当月：-9.0 (+1.0) 前月：-10.0	<b>畜産DI</b> 当月：-16.3 (+5.6) 前月：-21.9	
<b>惣菜DI</b> 当月：13.4 (-0.9) 前月：14.3	<b>日配DI</b> 当月：-9.6 (+9.8) 前月：-19.4	<b>一般食品DI</b> 当月：-13.0 (+2.8) 前月：-15.8	<b>非食品DI</b> 当月：-25.2 (-1.9) 前月：-23.3

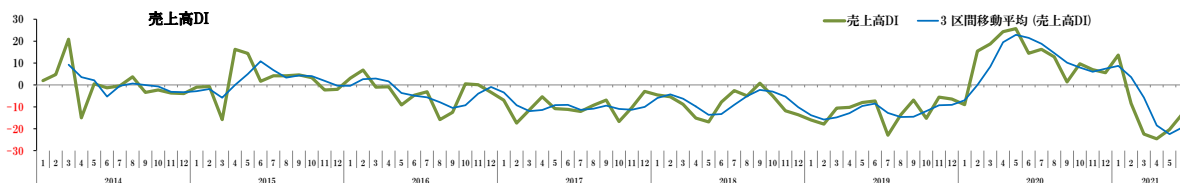
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

## 結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

### 1. 売上高DI

前年同月との比較は4ヵ月連続マイナスも、マイナス幅は縮小

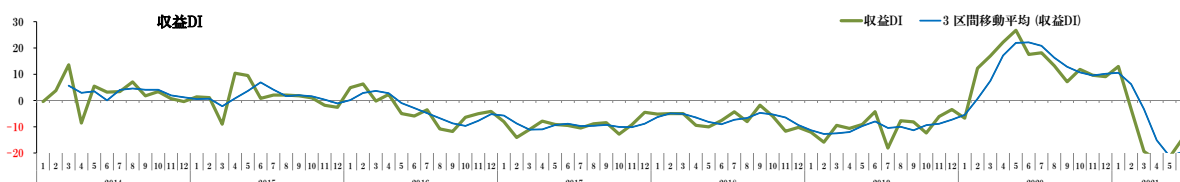
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	28.3	40.8	16.8	12.5	1.6	-20.4
売上高 (当月)	<b>21.6</b>	<b>32.7</b>	<b>24.8</b>	<b>19.0</b>	<b>2.0</b>	<b>-13.2</b>



### 2. 収益DI

前年同月との比較は4ヵ月連続マイナスも、マイナス幅は縮小

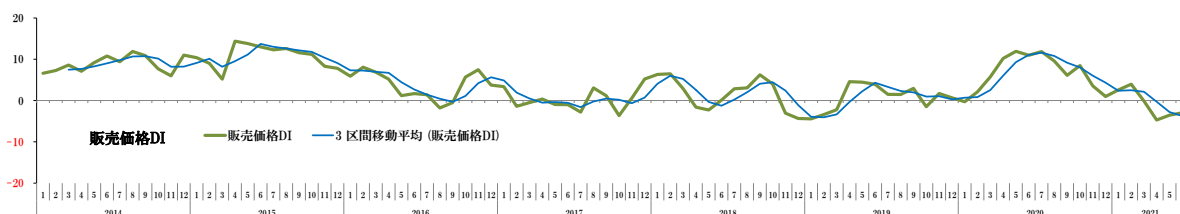
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	30.2	38.5	19.8	10.4	1.1	-21.6
収益 (当月)	<b>21.1</b>	<b>34.2</b>	<b>28.3</b>	<b>15.1</b>	<b>1.3</b>	<b>-14.6</b>



### 3. 販売価格DI

3ヵ月連続のマイナス域での推移

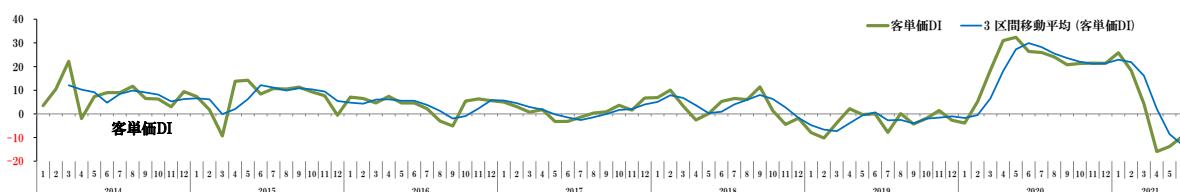
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	3.3	17.9	68.5	10.3	0.0	-3.5
販売価格 (当月)	<b>3.3</b>	<b>19.6</b>	<b>62.7</b>	<b>14.4</b>	<b>0.0</b>	<b>-2.9</b>



### 4. 客単価DI

当月小幅に上昇し、マイナス幅を縮小

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	15.5	38.7	31.5	14.4	0.0	-13.8
客単価 (当月)	<b>8.6</b>	<b>38.2</b>	<b>36.8</b>	<b>15.8</b>	<b>0.7</b>	<b>-9.5</b>

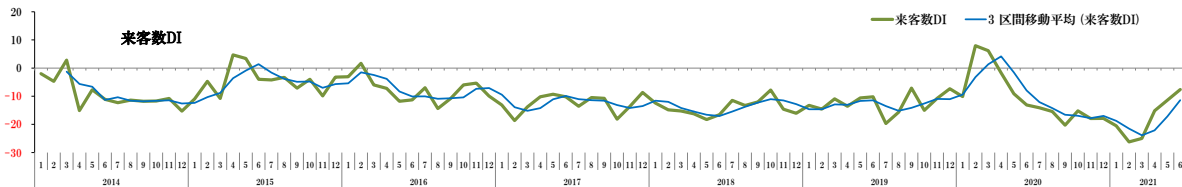




## 5. 来客数 DI

当月上昇し、マイナス幅を縮小

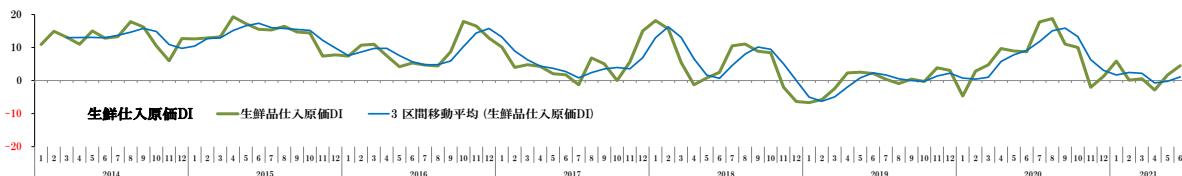
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	18.3	35.6	25.6	14.4	6.1	-11.4
来客数 (当月)	13.2	35.1	25.2	21.9	4.6	-7.6



## 6. 生鮮仕入原価 DI

当月上昇し、プラス幅を拡大

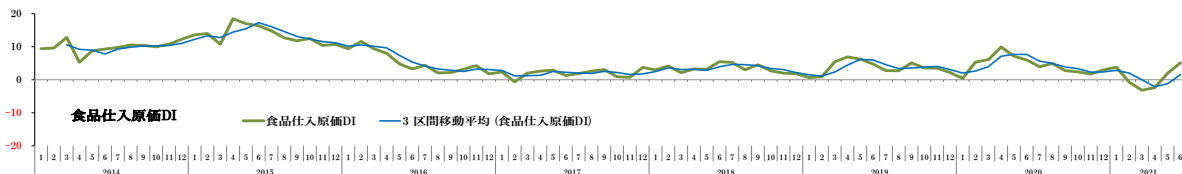
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	3.9	13.5	57.3	22.5	2.8	1.7
生鮮仕入原価 (当月)	2.0	11.3	55.3	29.3	2.0	4.5



## 7. 食品仕入原価 DI

当月上昇し、プラス幅を拡大

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	3.4	10.1	63.1	22.3	1.1	2.0
食品仕入原価 (当月)	2.0	6.6	62.5	27.0	2.0	5.1

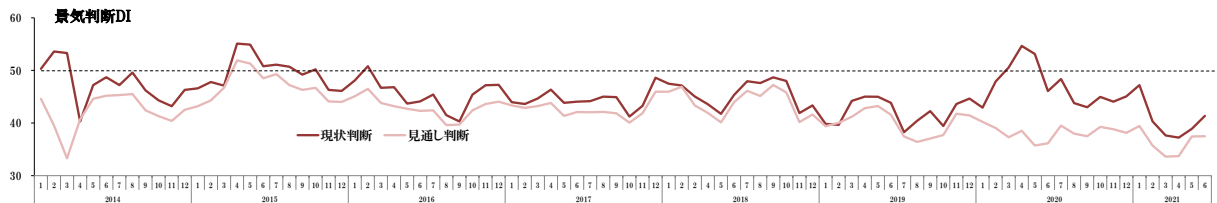


## II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

### 1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断が改善、見通し判断は横ばい

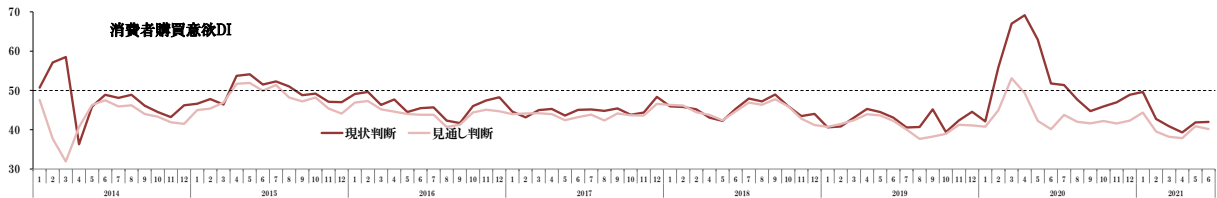
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	8.0	34.8	50.8	6.4	0.0	38.9
<b>【現状】景況判断 (当月)</b>	<b>5.8</b>	<b>31.4</b>	<b>54.5</b>	<b>8.3</b>	<b>0.0</b>	<b>41.3</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	8.6	39.6	45.5	6.4	0.0	37.4
<b>【見通し】景況判断 (当月)</b>	<b>7.7</b>	<b>39.7</b>	<b>47.4</b>	<b>5.1</b>	<b>0.0</b>	<b>37.5</b>



### 2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通し判断共に横ばい推移

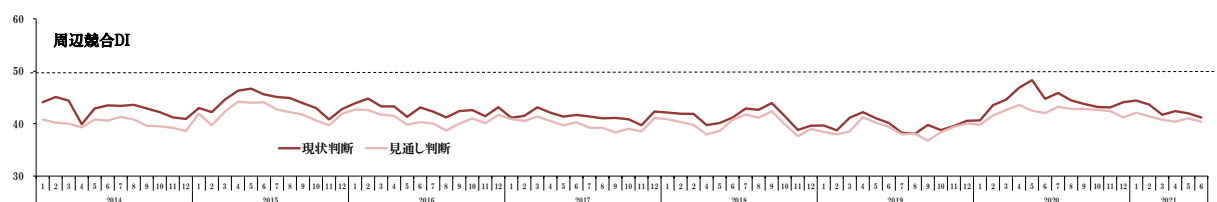
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.6	38.0	51.9	8.6	0.0	41.8
<b>【現状】購買意欲 (当月)</b>	<b>3.2</b>	<b>30.8</b>	<b>60.9</b>	<b>5.1</b>	<b>0.0</b>	<b>42.0</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.7	37.4	53.5	6.4	0.0	40.9
<b>【見通し】購買意欲 (当月)</b>	<b>3.9</b>	<b>34.8</b>	<b>58.1</b>	<b>3.2</b>	<b>0.0</b>	<b>40.2</b>



### 3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しともわずかに悪化

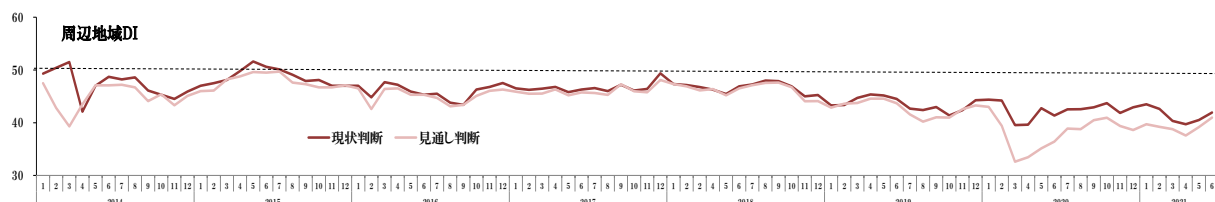
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.7	26.2	68.4	1.6	0.0	42.0
<b>【現状】競合状況 (当月)</b>	<b>5.1</b>	<b>25.6</b>	<b>68.6</b>	<b>0.6</b>	<b>0.0</b>	<b>41.2</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.8	27.8	65.8	1.6	0.0	41.0
<b>【見通し】競合状況 (当月)</b>	<b>7.1</b>	<b>25.6</b>	<b>66.0</b>	<b>1.3</b>	<b>0.0</b>	<b>40.4</b>



#### 4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に小幅に改善

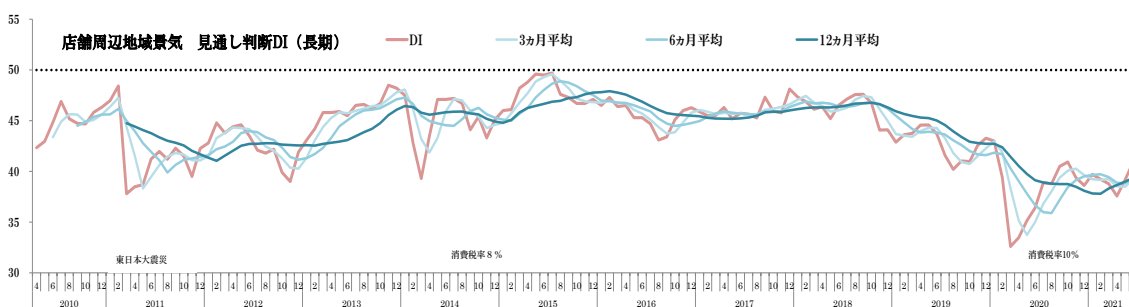
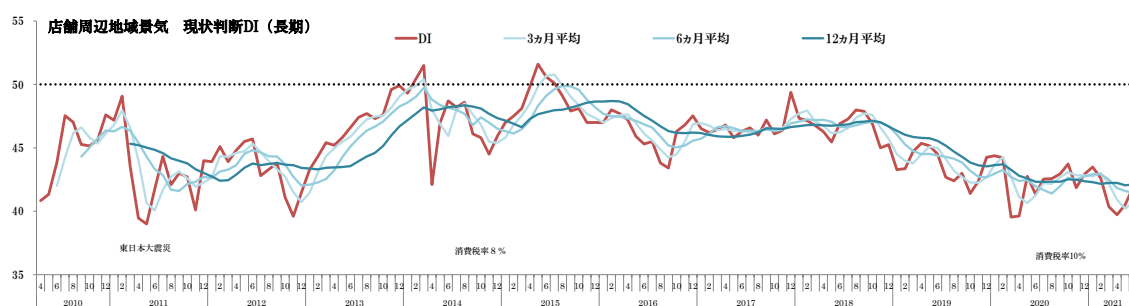
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.6	36.9	59.4	2.1	0.0	40.5
【現状】地域景気 (当月)	1.9	29.0	68.4	0.6	0.0	41.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	4.3	36.4	57.8	1.6	0.0	39.2
【見通し】地域景気 (当月)	2.6	32.9	62.6	1.9	0.0	41.0



#### ・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

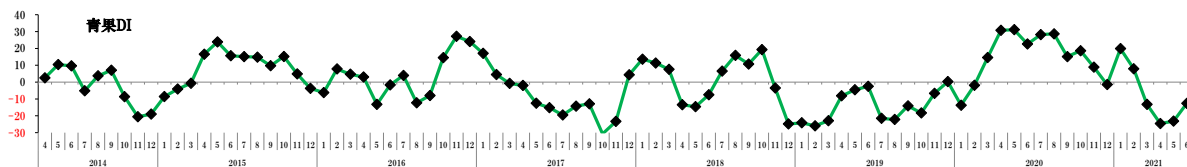
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月に大幅に悪化したのが、5月から10月まで持ち直しの動きが続いた。その後21年2月からは悪化するも、5月以降はやや改善傾向がみられている。



### Ⅲ. カテゴリー別動向

#### 1. 青果DI：-12.6（不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	30.7	43.6	15.1	8.9	1.7	-23.2
青果（当月）	15.4	43.6	19.5	18.8	2.7	-12.6

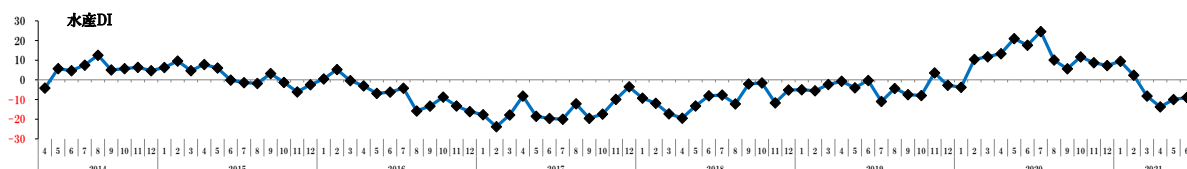


引き続き内食需要は堅調に推移しているが、前年に比べ青果相場が安値で推移した影響を受けた。また、前年に購入された品目を中心に反動減がみられたものの、20年6月は初回緊急事態宣言が解除されており、4月、5月と比べ影響は縮小した。

タマネギやじゃがいも、ニンジンなど土物類やトマトや洋菜、キュウリなどのサラダ商材、キャベツなどの葉物類は、前年の反動に相場安も加わり不振となった。果物類は前年並みを確保している店舗が多い。キウイフルーツや、台湾産が注目されたパイナップルを中心に輸入品が引き続き好調となった。スイカやメロン、柑橘類、カットフルーツも好調に推移した店舗が多い。

#### 2. 水産DI：-9.0（不調）

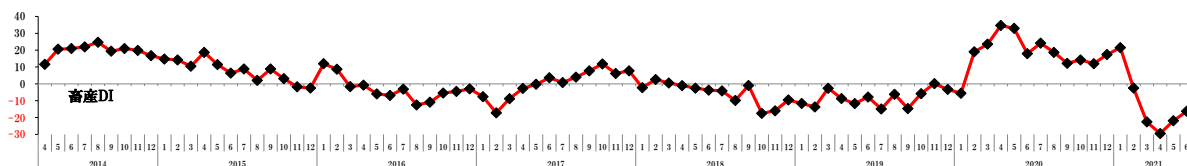
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	15.7	34.8	25.3	21.9	2.2	-10.0
水産（当月）	11.5	39.9	26.4	17.6	4.7	-9.0



他のカテゴリー同様に、前年に需要が高まった簡便調理商品や、保存できる塩干、冷凍加工品などに反動減がみられた。一方で、家飲み需要を追い風に、マグロやカツオなど刺身類、寿司用の盛り合わせなどが好調となった。カツオは入荷量が多く好調、気温上昇によりうなぎの動きはよいが、前年との比較では不調となった。生魚や切身については好不調がわかれている。

#### 3. 畜産DI：-16.3（不調）

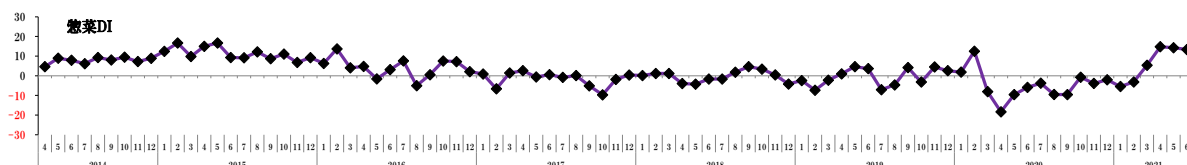
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	32.2	39.4	14.4	11.7	2.2	-21.9
畜産（当月）	20.8	40.9	24.8	9.4	4.0	-16.3



前年、保存に優れた畜産品の需要が増加した反動が続いている。特に加工肉や挽肉で前年との反動が大きかった。牛肉は、輸入牛の価格が高い状況が続いており国産牛が比較的好調となった。高単価商品は好不調がわかれている。豚肉や鶏肉は、相場高の影響を受け伸び悩んだ。ハム・ソーセージなど加工肉も前年からの反動減がみられる。

#### 4. 惣菜DI：13.4（好調）

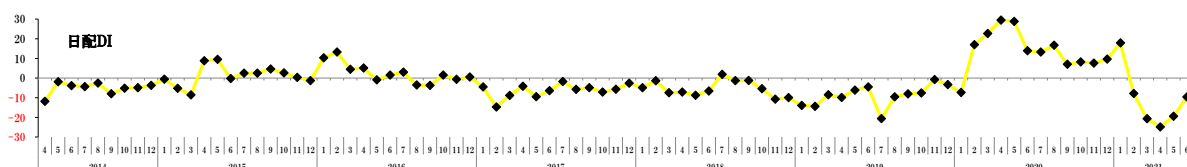
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	2.3	14.9	25.1	38.9	18.9	14.3
<b>惣菜（当月）</b>	<b>3.4</b>	<b>15.8</b>	<b>23.3</b>	<b>39.0</b>	<b>18.5</b>	<b>13.4</b>



前年は家庭内調理の急伸や通勤客の減少、バラ売り中止などの影響で伸び悩んだが、今年は回復傾向が続いている。在宅勤務の増加で中食ニーズが堅調で、昼食向けの米飯類や気温の上昇により寿司類や冷麺類、サラダなどの冷惣菜の動きがよい。自宅で調理しにくい商品群である揚げ物が好調に推移した。外食店の時短営業や酒類提供自粛要請もあり「家飲み」向けの焼鳥やつまみ類も引き続き堅調。

#### 5. 日配DI：-9.6（やや不調）

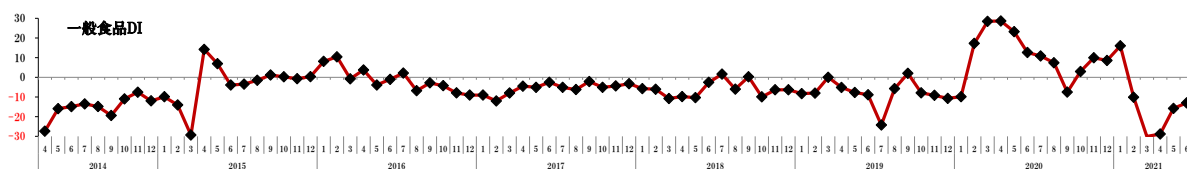
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	22.2	45.6	21.7	8.9	1.7	-19.4
<b>日配（当月）</b>	<b>10.8</b>	<b>37.2</b>	<b>34.5</b>	<b>14.9</b>	<b>2.7</b>	<b>-9.6</b>



肉食需要や弁当用として冷凍食品の動きが引き続きよく、前年好調だった牛乳やヨーグルト、納豆やキムチや漬物などの反動減も縮小傾向にある。鶏卵の価格が高騰しており影響を受けた店舗が多い。健康志向を背景に乳酸菌飲料や豆乳の動きがよい店舗もみられた。パン類にも回復傾向がみられている。デザート類も引き続き好調に推移している。練物を中心に和日配は不調とする店舗が多い。

#### 6. 一般食品：-13.0（不調）

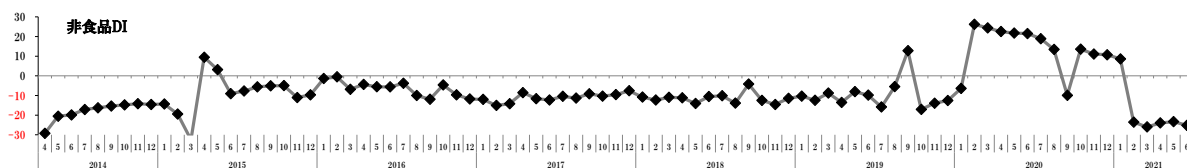
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	20.0	41.7	22.8	12.8	2.8	-15.8
<b>一般食品（当月）</b>	<b>16.4</b>	<b>39.5</b>	<b>26.3</b>	<b>15.1</b>	<b>2.6</b>	<b>-13.0</b>



前年に需要が高まった保存性の高い食品（米、カップ麺、パスタなどの乾麺類、シリアル、カレー・レトルト類、缶詰、ミネラルウォーターなど）、簡便商材、穀粉類や製菓材料など手づくり商材で反動減がみられた。家庭内調理需要は継続しており、調味料は引き続き好調となった。気温の上昇とともにそうめんなど涼味商材、飲料の動きがよかった。菓子類も回復傾向がみられる。飲食店の時短営業の影響もあり「家飲み」傾向が顕著となっており、ビールを中心に酒類や珍味などのつまみ類が好調。

## 7. 非食品 DI：-25.2（かなり不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	43.5	24.9	15.3	14.1	2.3	-23.3
非食品（当月）	37.0	35.6	18.5	8.9	0.0	-25.2



前年にマスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品で特需となった反動が続いており、大幅減となった。ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品類についても反動減が大きかった。日用雑貨、家庭雑貨も前年からの好調が一巡しており、伸び悩んだ。一部にはキャッシュレス・ポイント還元事業終了直前に発生した駆け込み需要の反動もみられた。

### カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20      好調：20 ～ 10      やや好調：10 ～ 0  
 やや不調：0 ～ -10      不調：-10 ～ -20      かなり不調：-20～

### 2021年7月調査（6月実績）キーワード TOP3

1. 前年からの反動やや縮小
2. 外食の時短営業、酒類提供抑制による影響
3. 梅雨入り時期の変化（西日本は前年より3週間程度早く、東日本は1週間程度遅い）

### （参考）2020年7月調査（6月実績）キーワード TOP3

1. 家庭内調理機会の増加
2. 土日が一日少ない曜日巡り
3. 気温が高い

### スーパーマーケット景気動向調査 集計数

6月実績速報版      156社  
 5月実績確報版      187社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 [tokei@super.or.jp](mailto:tokei@super.or.jp)